

校長会 みえ No. 64

●発行 三重県小中学校長会 津市桜橋 2-142 三重県教育文化会館内
TEL 059-227-7011 E-mail info@mie-kochokai.com
●編集 三重県小中学校長会 広報委員会
●印刷 光出版印刷株式会社 松阪市久保町 1885-1 TEL 0598-29-1234



私の学校づくり

ともに高め合える 学校に

桑名市立大山田西小学校 校長 水野 敦之

本校は、桑名市西部の小高い丘陵地に位置し、校舎の窓からは鈴鹿山脈を見渡すことができる、創立40周年を迎える学校です。運動場は平成24年からの校庭芝生化事業実施により、緑一面の芝生グラウンドとなっています。雨さえ上がれば子どもたちは運動場に繰り出し、サッカーを楽しんだり、虫捕り網を片手にバッタや蝶を追いかけたりしています。

学校教育目標は「心豊かで ともに高め合える 元気な子どもの育成」です。特に今年度からは「ともに高め合える」という言葉を入れ、4月の始業式では、仲間と助け合い・協力して・学び合うことで「ともに」を意識しましょうと訴えました。

本校では多くの学校行事をレインボーチームで行います。レインボーチームとは、異学年による縦割り班のことで。私がかつて本校に勤務していた30年前に組織して、始めた活動が脈々と進化しながら継続されています。当時は敷地内



に幼稚園もありましたので、7つの学年からなるチームとしてレインボーにしようと話し合ったのを思い出します。レインボーチームでの活動は、春の遠足、クリーン西小（草取り活動）、ピンクシャツ運動（いじめ防止活動）、運動会、そして毎月の業間活動等、様々な場面で行われています。高学年にとっては、活動の事前準備や当日の運営など多くの仕事を担うこととなりますが、そこは伝統の力です。今まで自分たちがしてもらいうれしかった思い出、気遣ってもらった優しさなどがモチベーションとなり、「今度は私たちが」という思いで取り組んでいます。転任してきた先生たちが「この学校の子どもたちは優しい子が多いですね。」と言われる原点は、こんなところにもあるのではないのでしょうか。

精選と効率が求められる学校現場ではありますが、「ともに高め合える」ための活動としてのレインボー活動を、これからの時代を生き抜くための大切な活動と捉え、進化発展を模索していきたいと思っています。



組織力を生かして、 三重の教育をより良くしていきましょう

三重県小中学校長会 会長

林 康子

もうすぐ、七夕。学校では、色とりどりの短冊が風に揺れています。この度、三重県小中学校長会会長を務めさせて

いただくことになりました、伊賀市立府中小学校の林康子と申します。よろしくお願いいたします。

この春、全国連合小学校長会「75周年記念誌」が届けられました。すでに、「50周年記念誌」も書架にありましたので、併せて読んでみました。全連小初代会長の言葉に「戦前は、校長会の組織はなかったと言える。知事や郡長が管下の小学校長を招聘した上意下達の校長会。」と戦前の校長会を評する文言がありました。「三重県小中学校長会の歩み」には、「昭和20年、三重県下国民学校長大会が開催され、これは、終戦という事態に直面した校長等が、教育再建のために、団結と協力を痛感し、再発足を図ったものである。」といった文言があり、心惹かれました。

2つの記念誌を読み、校長会という組織が、戦後の厳しい状況の中、「自分たちの手で自分たちの組織をつくる」という熱い思いをもって結成され、以降、会員相互の緊密な連帯のもと、全ての教育関係者と協力し、教育の諸課題を改善するとともに義務教育を「より良く」するこ

とに努められてきたのだと実感しました。そして、これまでの先輩方の組織力を生かした取組に対して、感謝と敬意の気持ちがこみ上げてきました。

社会は、Society5.0の実現に向けた高度情報化、技術革新、グローバル化の進展とともに、社会構造や労働環境も大きく変化するなど、複雑で予測困難な時代を迎えています。今の子どもたちが社会で活躍する頃には、今以上に厳しい状況が予想され、持続可能な社会の創り手の育成とともに、日本社会に根差したウェルビーイングの向上が求められる時代でもあります。

三重県小中学校長会は、全会員の英知と情熱を結集し、このような時代を生き抜いていくための力を子どもたちにつけていかなければならないと考えます。また、先輩方が築き上げた「子どもたちを中心に据えた教育」を大切にするとともに、学校における働き方改革をより一層進め、教員が心身ともに健康に働ける環境を実現していきたいと思ひます。

その実現のためにも三重県教育委員会や市町教育委員会と情報を共有し、「学校からの教育改革」を提言していくとともに、「教育の諸条件の整備・充実」「処遇改善」等の要望も行ってまいります。会員の皆様のご協力をよりよろしくお願いいたします。

小学校部会役員



中村公治(幹事) 阿保谷季之(幹事) 石井孝史(幹事)
山中浩人(副部会長) 林 康子(部会長) 松本幸也(副部会長)

中学校部会役員



市森幸子(幹事) 藤本伸一(幹事) 矢田哲也(幹事)
高岸三枝(副部会長) 古市卓司(部会長) 三輪敏哉(副部会長)

令和6年度 三重県小中学校長会 理事名簿

郡市名	会員数	小学校理事		会員数	中学校理事	
		名 前	所属校		名 前	所属校
桑名市・桑名郡	28	水野 敦之	大山田西小	10	若子偉之昌	正和小
いなべ市・員弁郡	17	加藤 晋平	三里小	6	島田 真也	東員第一中
四日市市	37	北住 昌文	水沢小	22	山内 雅喜	中部中
三重郡	8	秦 弘人	朝上小	4	田口佐登志	川越中
鈴鹿市	30	長谷川 浩	稻生小	10	草川 哲郎	白鳥中
亀山市	11	草川裕美子	関小	3	堀内 克子	関中
津 市	50	松島 克幸	誠之小	20	川原田 元	朝陽中
松阪市	36	豊田多希子	豊田小	11	尾崎 充	西中
多気郡	14	中谷 倫明	川添小	5	村田 功	多気中
伊勢市	22	福岡 俊記	二見浦小	10	仲地 正俊	小俣中
度会郡	12	春木 淳志	度会小	6	山口 永介	南勢中
鳥羽市	6	岩本 和也	鳥羽小	4	木下 英樹	神島中
志摩市	7	越山 弘之	大王小	6	大木 信幸	志摩中
伊賀市	18	姫野 武	久米小	10	五百雀 豊	上野南中
名張市	14	森永美紀子	梅が丘小	5	藤山 正道	南中
尾鷲市	5	奥村 隆志	尾鷲小	6	矢賀 正之	三船中
北牟婁郡	8	東 光司	赤羽小			
熊野市	8	畑中 祥司	木本小	8	宮崎 浩伸	飛鳥中
南牟婁郡	9	矢賀睦都恵	御浜小			

委員会活動

学校経営委員会

委員長 鈴鹿市立稲生小学校長

長谷川 浩



昨年度は、新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類に移行し、新しい「平時の学校の在り方」を模索する1年だったと思います。本年度は、現行学習指導要領に謳われた「主体的・対話的で深い学び」をいよいよ実現すべく、

一人一台端末のより効果的な活用、社会や家庭、子どもたちの変化への対応、教職員の働き方改革といった課題も踏まえ、「新しい学校の在り方」をさらにはっきりとさせていかなければなりません。

学校経営委員会では、学校現場の実態把握のための校長アンケート、教育課題実践交流会を隔年で実施し、県内小中学校の教育力向上に資してまいります。

本年度は、文部科学省から出された「教育委員会における学校の働き方改革のための取組状況調査」を踏まえ、校長会だからこそできるより具体的で、現場の実態を反映した調査を行います。そして結果を分析、共有することで、「新しい学校の在り方」を県内の小中学校長の皆様とともに考え、その実現を加速していきたいと考えています。

各校長先生方におかれましては大変お忙しいこととは存じますが、アンケートへのご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。

進路指導委員会

委員長 名張市立赤目中学校長

山本 和弘



生徒一人一人の自己実現を目指す進路指導の取組に、三重県教育委員会のご理解のもと、成果と課題から見直しと改善を行い、地道な努力を続けてまいりました。

実施15年を経過している現行の入学選抜制度において、Web出願やデジタル化により、入試事務の簡素化が図られ、円滑に行えるようになってまいりました。しかしながら、まだまだ改善を要する点があり、より確実に行っていただけるよう、関係各所と連携し取り組んでいきたいと思っております。

課題の解消に向け、今年度の活動方針を以下に示します。

- (1)児童生徒の理解を深め、個性の伸長を図り、自己実現をめざす進路指導を推進します。
- (2)県内の小中間及び中高間において、情報交換・意見交換に努めます。
- (3)三重県教育委員会・三重県立学校長会・三重県私学協会等の関係機関と協議し、現行入学選抜の課題や入学選抜制度、高校活性化問題等の改善に努めます。
- (4)キャリア教育についての研修に努めます。
- (5)インフルエンザ等感染症の影響により、生徒・保護者が不安を感じることなく進路に迎えるよう、関係機関に聞き取り・要望・提案を行ってまいります。

令和6年度 研究大会

●第61回三重県小学校長教育研究大会

◆日時 令和6年7月26日(金) AM:全体会 PM:分科会

◆会場 三重県総合文化センター 中ホール (全体会)
三重県総合文化センター内 各会場(分科会)

※全体会 「令和7年度東海・北陸地区連合小学校長会教育研究三重大会」概要説明

(1)全体説明 実行委員長より

(2)各部専門委員会説明 各委員長より

●第61回三重県中学校長研究大会

◆日時 令和6年8月20日(火) AM:全体会 PM:分科会

◆会場 男女共同参画センター 多目的ホール (全体会)
三重県総合文化センター内 各会場(分科会)

※記念講演「伊勢志摩ガストロノミー」

～志摩観光ホテルの料理哲学とおもてなしの心～

都ホテル&リゾーツ 志摩観光ホテル

総料理長 樋口 宏江 様

◎全連小徳島大会

・令和6年10月24日(木)・25日(金):徳島市

◎東陸連小愛知大会

・令和6年10月17日(木)・18日(金):名古屋市、常滑市

☆東陸連小三重大会

・令和7年10月9日(木)・10日(金):三重県総合文化センター 他

◎全日中岩手大会

・令和6年10月17日(木)・18日(金):盛岡市

◎東陸中福井大会

・令和6年7月4日(木)・5日(金):福井市

生徒指導委員会

委員長 大台町立川添小学校長

中谷 倫明



現在、学校現場ではコロナ禍も明けて本来の教育活動が可能になってきました。しかしながら、不登校児童・生徒数をコロナ禍以前と以後とで比較すると、小学校で約2.0倍、中学校で約1.5倍となっており、またその約4割の子どもが何らかの教育機関とのつながりを持っていないという厳しい現状にあります。

生徒指導委員会では、毎年実施されていた生徒指導実践交流会が隔年開催となり、今年度は実施しないことが決定しています。そこで、協議の結果、不登校児童・生徒の実態についてのアンケート調査の実施を計画いたしました。つきましては、校長先生方のご協力をよろしくお願いいたします。

〈活動方針〉

- (1)生徒指導等の諸課題の解決にむけた取組と支援の在り方を追求します。
- (2)地域及び関係機関との連携を密にし、互いの交流を深めるとともに、安全・安心な学校づくりに努めます。
- (3)県内各小中学校間の情報交換を行い、県校長会及び各郡市校長会にも発信していくような取組を進めます。

〈活動内容〉

- (1)不登校児童・生徒の現状についてのアンケート調査
- (2)若手教員への指導の手立てとして、学校や市町等において実践されていることの情報交換

広報委員会

委員長 伊勢市立小俣中学校長

仲地 正俊



4月22日に第1回広報委員会を開催し、本年度の活動計画について確認を行いました。校長先生方におかれましては、職員の健康管理や働き方改革、資質向上への取組、学力向上の取組、これからの季節の熱中症対策等様々な課題に日々対応していただいていることと思います。

私たち広報委員会は、今年度も各校における様々な教育課題への対応や実践、各郡市校長会の活動の様子などをお伝えしていきたいと思っております。情報交換・情報収集の場として、お役に立てればと考えておりますので、執筆等ご協力をお願いいたします。

〈活動方針〉

- (1)会員の声を幅広く掲載するとともに、情報交換や情報収集の場となる紙面づくりに努めます。
- (2)広報活動を通して、会員相互の連携意識の更なる向上を図ります。
- (3)年2回発行し、情報提供に努めます。

〈活動内容〉

- (1)広報「校長会みえ」を年2回(7月号・2月号)発行します。
- (2)紙面は8面構成、全ページカラー印刷をします。
- (3)執筆については、広報委員又は当該地区の理事を通して依頼させていただきます。編集内容は、「私の学校づくり」「新任校長の声」「ちょっといい話」「今日的課題の克服に向けて」「私の薦める一冊」「地区校長会だより」等になります。

教育環境委員会

委員長 津市立朝陽中学校長

川原田 元



教育環境委員会が県教育委員会等に行う要望活動は校長会活動の根幹をなすものです。三重県の小中学校長会としての声をしっかりと伝えるために、自覚と責任を持って委員会活動に取り組みます。5月20日に第1回委員会を

開催し本年度の活動方針等を協議しました。

活動方針は次のとおりです。

〈活動方針〉

- (1)各郡市校長会を通して、県内全小中学校長から県教育委員会の施策や予算等に関する意見を集約します。また、要望の焦点化に努め「重点項目」を設定します。
- (2)集約した意見を「要望書・解説書」に取りまとめ、次年度の小中学校教育の充実発展に資するよう要望活動を行います。
- (3)昨年度の要望活動を踏まえ、子ども・保護者・地域・教職員の具体的な事例に基づいて要望活動を行います。
- (4)取りまとめについては、昨年度までの確認事項を尊重しつつ、要望書の信頼性を高めるように努めます。

〈活動内容〉

- (1)要望書・解説書の作成(～7月)
- (2)県教育委員会等への要望(8月)
- (3)令和8年度要望用資料の作成(～11月)

特別寄稿



子どもたちにとって 身近で記憶に残る 校長先生になってね！

亀山市教育委員会教育長
中原 博

校長として5年4か月の間、どの学校でも「かならず」「毎日」朝のあいさつや声掛けを行いました。顔と名前を覚えるし、登校を見守る地域の方や忘れ物を届ける保護者、登校しぶりをする児童の親御さんとも自然に会話ができる関係が出来上がるし、効果は絶大でした。

表情や態度がいつもと違う児童がいれば、すぐに担任や養護教諭と共有します。朝のおしゃべりから得た情報もあわせて伝え、指導方法をともに考えます。隣のクラスや専科の先生、いろいろな職種の先生方も巻き込んで、連携を図ることの大切さを実践の中で伝えてきました。

時には教室までその後の様子を見届けに行くこともありました。教室でその子が心地よく過ごすことができているか、教員や周りの児童とのかかわりの中で、教室マルチリトメントにつながる言動はないか、自然な形で観察・助言をすることができました。

ありきたりな活動ではありますが、「毎日」続けるのは正直骨が折れます。多忙が続き少しサボりがちになった時のことです。ある元気な子が、廊下で「校長も初めだけやなー、最近居らんの一」と叫んでいるのが聞こえてきたのです。その声に襟を正すと同時に、そっけない態度の裏で「ちゃんと見てくれていた」と元気づけられもしました。また、6年担任団企画の「校長先生からの最後の授業」での呼びかけの中にも、校長先生のあいさつ・声掛けが嬉しかったとの言葉があり、感動して涙が出ました。どちらも、子どもたちや職員から思わぬ形のご褒美をもらった嬉しい思い出です。

さて、冒頭の言葉は校長職に初めて就任した時、娘からも



市立図書館

らった激励の言葉です。身近で記憶に残る校長先生になれたのでは…と自画自賛しています。

やった分は必ず返ってきます。目指す子どもの姿、目指す教職員の姿と現状とのギャップをどう埋めていくか、誰に何をしてもらい、いつどこで仕組むかなど、計画を練り上げ実行して、改善していくプロセスを、同僚とともに楽しんでいただきたいと思います。校長のやる気は、教職員や保護者に伝わり、それが目指す子どもの姿を実現する源となると信じます。やりきることが管理職の責務であるとも考えています。

◆何を大事にして仕事をしていくか～VUCA（ブーカ）時代の意思決定方法「OODA（ウーダ）ループ」～

一方、現在、教育長として市全体の教育行政を任されていますが、やり方は校長時代と同じです。市政の方向性や学校の現状、教育の今日的課題を含め、情報をしっかり収集した上で、教育現場をしっかりと観察・分析することを特に大切にしています。理想の姿と現状を比較し、将来を見通しVUCA（先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態）の時代に生きる子どもたちにつけたい力を育てていくために何が必要かを判断し、方向性を決定し、理想に近づけるための仕組みづくりに悩む毎日です。このようなサイクルをOODAループといい、VUCA時代の意思決定方法としてよく聞かれるようになりました。このループを繰り返しながら、知恵を出し合い、よりよい教育環境の充実を図っています。



学校へ行きづらい子どもたちのための「サークル・ルーム」、市立図書館の学校配本「ほんくる。」、中学生のメンタルヘルス「KOKOROBO-J」（大学等連携事業）などの取組や仕組みもこのループから生まれました。亀山市教育委員会事務局職員みんなで協議・検討した結果です。

VUCAの時代の中で、学校経営においても、リーダーシップはさらに重要な要素となっています。限られた時間の中で、最大の効果を求められています。しかし、どうかその役割を楽しんでください。校長として、あなたらしい「管理職とみんなで作るいい職場づくり」のために、全力でお仕事していただけたらと考えます。



役職が人を育てる

大紀町立錦小学校 校長
奥野 和秀

「教頭先生！」この声に、まだピクッと反応してしまいます。大紀町の大紀小学校から同町の錦小学校へと移り、新たな役職に戸惑いつつも、早いもので3か月が経過しました。登校する児童と挨拶を交わし、学校を一回りするルーティンの中で、徐々に役職が馴染んできたように思います。法の整備で押印が不要になりつつあるご時勢でも、押印の機会が意外と多く、その度に校長としての責任を痛感します。本年度は、令和7年度に大紀小学校との統合を控えており、錦小学校を締めくくる歴史的な一年となります。赴任と同時に閉校という大きな課題に直面し、その重圧を感じています。校長室には、歴代校長の名前がずらり、5代前までは顔写真付きで並んでいます。先輩方の偉大さに圧倒されつつも、WBCの大谷選手を見習い、「先輩方からの重圧は捨てましょう。自分も校長なんだ。」と言い聞かせています。度会郡校長会総会での中村教育長会長が述べられた「校長は、覚悟・責任・決断が大切。」との言葉を心に刻みました。自己肯定感の涵養、コンプライアンス意識や資質能力の向上等を念頭に置き、役職への重圧を感じながら、一人一人のパフォーマンスを引き出し、チーム力での対応に勤めます。



「子どもファースト！」の学校を目指して

紀北町立上里小学校 校長
小久保 久美子

「おはようございます！」毎朝、登校してくる子どもたちと元気にあいさつをします。子どもたちにパワーをもらい1日がスタートします。本校は全校児童42人、豊かな自然に囲まれています。地域とのつながりも深く、登下校、交通安全等地域の方の見守りにより、「安心・安全」を確保していただいています。今年から、CS（コミュニティ・スクール）が発足しました。地域や保護者、学校が方向性

を合わせ、一体となって、子どもたちの成長に関わっていきます。地域の方に教えていただく米作り学習、老人会との活動、地域を巻き込んだ「上里小防災の日」など、地域の方々と関わる機会をたくさんつくることで、子どもたちの自己肯定感や、主体性、地域を誇りに思う「かみさとっ子」を育てていきたいと考えています。そして、子どもたちの成長を保護者や地域の人たちと喜び合ったり、励まし合ったりしながら、私も職員も成長していきたいです。日ごとに忙しくなっていく学校現場ですが、まずは職員が「健康」「笑顔」を合い言葉に、お互い悩みや課題も共有し、「チーム上里」で、きめ細やかな指導を一つ一つ積み上げていきます。地域や保護者の方も巻き込みながら、「子どもファースト！」の学校を目指していきます。



地域に愛される学校を目指して

津市立芸濃中学校 校長
山本 浩司

朝、生徒たちを昇降口で出迎えると、「おはようございます」と元気な挨拶が返ってきます。生徒たちから自発的に挨拶してくれる回数も増え、その声も少しずつ大きくなってきている気がします。

朝の職員打ち合わせが終わると、すぐに教室を回り、各クラスの朝学活や生徒たちの授業の取組を見に行くことが、この上なく楽しみになっています。

そして、その元気な生徒たちの様子や芸濃中学校のことを、保護者の皆様や地域の方々にもっと知っていただくために、学校だよりの発行、ホームページの更新を日々続けています。

本校の学校教育目標は、「夢を持ち自立に向かう生徒の育成」です。中学校生活の3年間を通じて、生徒たちには、夢を持ち、未来を切り拓くことのできる学力と体力、そして、豊かな人間性と感性を育ててほしいと願っています。

生徒たち、保護者の皆様、地域の方々、もちろん教職員、誰もが皆、芸濃中学校が好きになり、笑顔でわくわくする学校経営ができるように日々精進していきます。

ちよつといい話



「困難は分解せよ」
仕事がうまくいかない時は、
この言葉を
思い出してください

鈴鹿市立清和小学校 校長
小倉 整

ここ数年、年度末になると、定年退職を迎える先輩方で特にお世話になった方には、なるべくご挨拶に行くことにしています。こういった理由で足を運んだ時は、お顔を見られただけでも嬉しいものですが、さらに嬉しいことに、大抵の先輩方は「握手」をしてくれます。

思い出す数多の握手の中で、私が覚えている最も古いものは今からちょうど30年前、教師になって3年目の夏でした。女子バスケットボール部の顧問をしていた私は、中体連の地区大会で敗れてプレーオフを戦っていました。保護者や地域の方からの叱咤激励とプレッシャーの中で、何とか勝ち上がって県大会の出場を決めた時、「握手しよう」と言われました。同じ学校の男子バスケットボール部の顧問の先生からでした。素人の私に、バスケだけでなく女子との接し方も含めて教えてくださり、本当に徒手空拳の私を支えてくれた年上の体育の先生でした。

それ以来、私は本当に大切な場面だと思った時、本当に感謝の気持ちを伝えたい時、握手をするようになりました。卒業式の日に担任した子どもたち全員と、何年も挑戦し続けた部活動で初めて東海大会を決めた若手教師と、研究発表会を成功させて緊張が解けた顔の研修主任と、送別会で職場を去る先輩方と、温かい手、冷たい手、柔らかな手、節だらけの手とそれぞれに大切な握手をしてきました。その中で、残念に思うのは、できなかった握手です。

一昨年度、私は卒業生たちの20歳の同窓会に顔を出すことを楽しみにしていました。私にとって最後に担任し、学年主任を務めたので、8クラス全員の顔が浮かぶ思い入れのある学年でした。しかし、皆さんもご存知のように、新型コロナウイルス感染症の中で、その機会はなくなってしまいました。

人は出会いで人生が豊かになり、別れで人生が深まるといいます。私はこれまで、そのどちらの場面でも「心に残る握手をたくさんしてもらったなあ」と感じます。そういった方々への恩返しも含めて、これからも心をこめてたくさんの握手を、と思っています。

私の薦める一冊



賢さをつくる

四日市市立中部中学校 校長
山内 雅喜

「賢さ」とは何でしょうか。単純にテストで100点をとる能力ではないはず。予測不能で変化の激しい時代に必要な「賢さ」を求めて柵に手を伸ばした私ですが、予想外にも手にしたのはマネジメントの本でした。(教育書ではなく、ビジネス書コーナーに陳列されていましたけど。)

マネジメントを「他人を動かして成果を出すこと」と定義するならば、学校経営目標がうまく伝わらず、なかなか成果に結びつかないと、お悩みの方もいらっしゃるはず。うーん、なんで伝わらないの？

この本では「賢さ」を、【具体と抽象の往復運動】と説明しています。そして世の中には、具体で考える人、抽象で考える人、その両方で考える人が存在するというのです。ほう、そうきたか。なんとなくわかるけど。

校長：2～3年のスパンで、目標・理想を語る。

《抽象》

職員：目の前の事象に対して、手立てを語る。

《具体》

そもそも、校長と職員では立ち位置が違うので、話がかみ合っていないのです。この立ち位置は職種だけではなく、具体的な人か抽象的な人かの違いも指します。話が通じない、伝わらない理由を《具体》と《抽象》で説明すると、あら、スッキリ！ 頭の整理ができたのでした。

その後の私は、「今は、具体が必要だな。」「彼には、抽象で語っておかないと。」と、場面分けをして話す余裕が生まれました。あれ、ここまで伝わっていますか？

加えて、目標《抽象》を手立て《具体》に変換できる人材(=具体と抽象の往復運動ができる人)の育成が必要なことも見えてきます。ほぼ、これに尽きます。

何よりも読みやすい。本好きの方ならば、2日もあれば読めるでしょう。職員とのコミュニケーションやマネジメントにお悩みの方は、ぜひ、手にとってみてください。「賢さ」の概念が変わりますよ。いや、ホント。

員弁郡・いなべ市校長会

具体的な提言ができる校長会を目指して

員弁郡・いなべ市校長会は、小学校17校、中学校6校の合わせて23校で構成されており、活動のほとんどを小中学校合同で行っています。

本年度も以下の4つを活動の柱として、様々な取組を進めています。

- ◆支え合う校長会…定期的な情報交流
- ◆学び続ける校長会…教育情勢の情報収集と発信
- ◆創造する校長会…教職員及び教職員集団の育成
- ◆協働する校長会…諸機関との連携や諸課題への提言

今回は「協働する校長会」の具体的な取組について紹介させていただきます。

毎年4つ程の研究主題を設定し、分科会ごとに研究・提言を行っています。今年の研究主題は以下の通りです。

- ①人材育成…教職員の資質向上
- ②保護者・地域との信頼関係の構築…組織的に取り組む
- ③不登校の未然防止…安心感・充実感を得られる学校づくり
- ④授業改善…「誰一人取り残さない教育」の実現

こうした教育の今日的な課題について、分科会によっては講師を招聘する等して研究を進め、年度末には具体的な提言の形にまとめて発表します。分科会の提言によって実際に改革が行われた例もありますので、これからも単なる研究に終わらず、具体的な提言ができる校長会を目指して活動をしていきたいと思っています。



三重郡中学校長会

小学校部会と「連携・協力」を深め、「つながりを大切にする中学校部会」です

三重郡菟野町・朝日町・川越町の3町からなる4つの中学校部会です（菟野中学校・八風中学校・朝日中学校・川越中学校）。

本年度、新任校長2名を迎えた新しいスタートです。また、三重郡の8校からなる小学校部会も8名中、5名の新たな仲間を迎えました。昨年度まで大変お世話になった2名の先輩校長の意思を受け継ぎ、今年度も三重郡の小学校部会とともに「連携・協力」を深め、様々な教育諸課題に向けて共に考え工夫をし、意見を出し合い、小規模の三重郡ならではの「小・中をつながり」を大切にする中学校部会です。4月早々には小中合同の懇親会も行い親睦も深めています。このようなことも含めて、三重郡の小学校部会も中学校部会も、町内校区内のつながりだけではなく、三重郡内4中学校、8小学校の校長間でいつでも相談や協力ができる体制があるのだと思います。この体制は、三重郡小中校長会の諸先輩方が代々大切につくりあげてきた「大切な強み」だと思います。

先輩校長からは、下に表す集合写真も「三重郡小中学校長会」として12名全員で撮影したらどうか・・・という意見もいただいていたのも事実です。

教育は時代の流れと共に変わります。ICT機器の活用・教員の働き方・部活動地域移行などなど……。しかし、時代を超えても変わらない価値のある大切なものは「つながり」であり、「関わり」からくる心の教育だと思います。そんな大切な「心の教育」を三重郡小中学校長会としてともに協働し、目指していきたいと思っています。



編集後記

「令和6年能登半島地震」発生より半年が過ぎました。復旧した地域の様子が報道されることが増えた一方、発災時とほとんど変わらない地域もまだまだあるとのこと。一日も早い復旧、そして復興を強く願うともに、今一度「自分たちにできることはないだろうか。」と問い直さずにはいられません。

一方、「南海トラフ地震」は、前回の発生（昭和東南海地震・昭和南海地震）から70年以上が経過しており、発生の切迫性が日増しに高まってきています。まずは、様々なことに柔軟に対応できる職員集団作りを大切に、発

災時における「支援体制づくり」と「受援体制づくり」を合わせて検討する必要があると感じるところです。

さて、「校長会みえ」は本年度も年2回発行いたします。原稿執筆を快くお引き受けいただいた皆様方には心より感謝申し上げます。今後の教育の動向を踏まえた情報提供、会員相互の情報交流や組織の充実、発展に役立つ紙面づくりを目指していきたいと思っています。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。